

大学連携コラム

## ドクターが診る 健康相談室

Vol.5

# 新型コロナで 大腸がん検診を 控えていませんか？



大阪医科薬科大学病院  
一般・消化器・小児外科※  
田中 慶太朗さん

新型コロナでがん検診の受診率が低下して、早期に発見できるがんが見逃されている現状に懸念が高まっています。最新のがん統計では、生涯でがん罹患する確率は2人に1人となり、大腸がんの罹患数はすべてのがん患者数の中で1位、死亡数は2位（女性は1位、男性は3位）となっています。自覚できる大腸がんのサインは、**排便時出血、排便習慣の変化、腹痛、お腹の張り、体重減少**などがあります。新型コロナウイルスの流行のため、排便時出血などを認めても「どうせ痔だろう。」と自己判断して受診を見送る方が多くなっています。1年以内に大腸がん検査を受けておらず、このような症状がみられる方は、迷わずに近くの病院や診療所に相談・受診してください。

目で見てわかる症状や体調の変化がなくても、大腸がんが潜んでいることは多くあります。早期に発見された大腸がんは、内視鏡切除や腹腔鏡下手術といった、からだに優しい方法で完治する可能性が高く、**年に一度大腸がん検診（検便検査）を受けることが推奨**されています。そして、検診を受けることで、死亡率を60〜80%減らせることも分かっています。高槻市では市民に対して40歳以上無料の大腸がん検診を行っていますので、高槻市のホームページを確認してみてください。新型コロナのためを受診や健診を敬遠することなく、安心できる生活環境を取り戻しましょう。

※当該病院における「一般・消化器・小児外科」は内部呼称になります